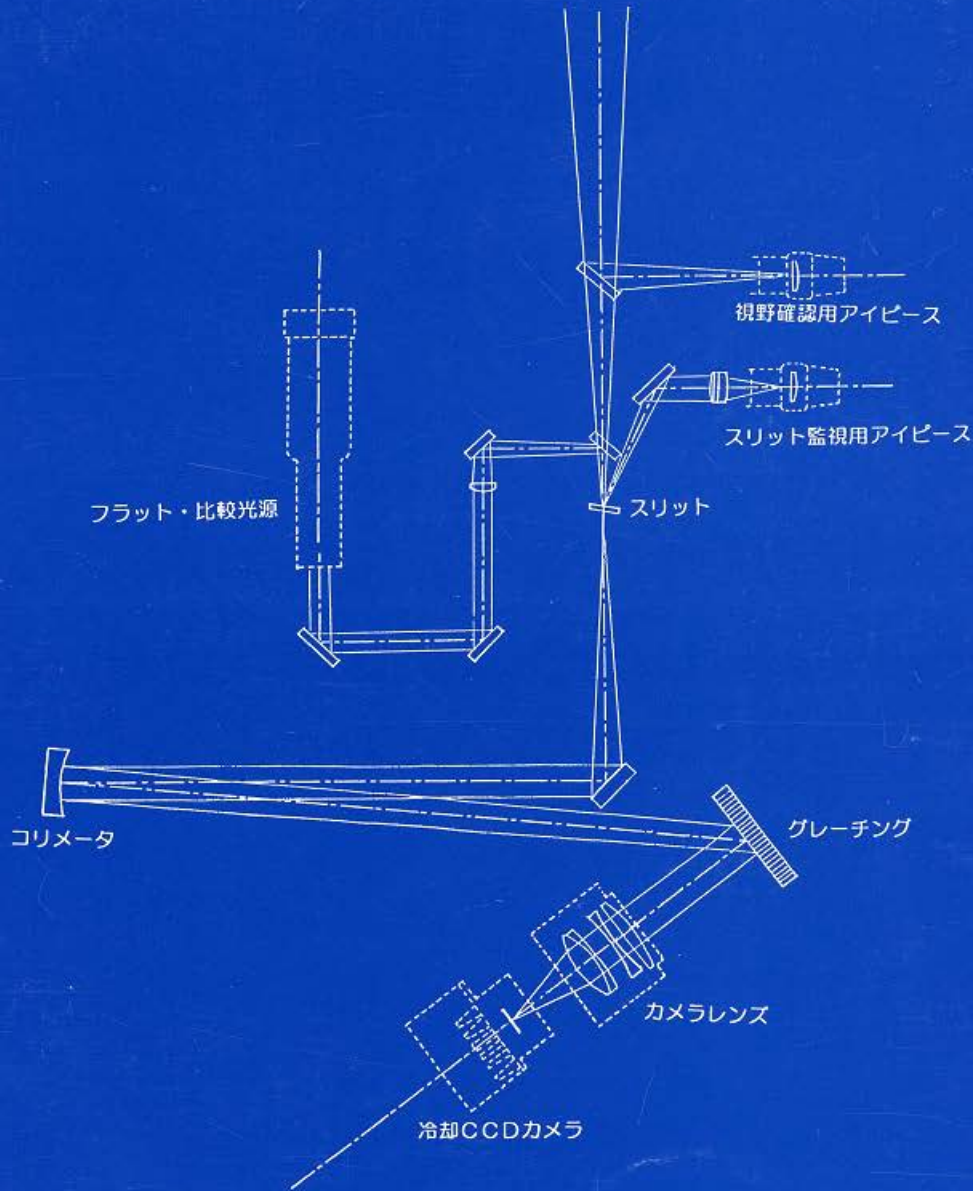


1996年3月2日～3日

天体スペクトル研究会



主催

天体スペクトル研究会実行委員会
綾部市天文館
大阪市立科学館
美星天文台

発行

大阪市立科学館

はじめに

1996年3月2日及び3日(土、日)にかけて、オープン直後の綾部市天文館で「天体スペクトル研究会」を開催しました。本集録は、そこで発表されたものをまとめてあります。天体スペクトルに関する研究・学習のための教材化・教具づくり・普及活動に関する内容となっています。ご活用いただければ幸いです。

一番身近な天体のスペクトルは、大空にかかる太陽の虹です。ガラスで分光されたもの、CDの分光された反射光など身の周りにはたくさんあります。また、理科の実験で行われる炎色反応のきれいな光などは、心引かれるものです。専門家以外の人にとっては、これらのことと天体スペクトルという用語の間には、現在大きなへだたりがあります。その原因の一つに、人々の直観的な理解を助ける教具が開発されていない、ということがありそうです。

この観点から研究会で、二つの報告がなされました。中学生と一緒に、星のスペクトルをカラーフィルムで撮影して、スペクトル型による色の変化を確認したという報告(船越氏)、本邦初公開のカラースライドによる恒星の中分散スペクトルの紹介(定金)です。今後、この方面の教具開発・教育実践が求められるのではないのでしょうか。

本研究会は、天体の表すスペクトルを楽しみながら理解していくこと、同時に普及活動をも進めることを目的にしています。そして主に公共天文台や科学館等の中小型分光器を活用した研究活動を呼びかけています。第1回目は、1994年3月に大阪市立科学館で「恒星スペクトル研究会」を開きました。今回は、対象を恒星だけでなく彗星のスペクトル研究なども含めて「天体スペクトル研究会」としました。百武彗星の出現で天体現象にマッチした形になりました。なお、開催はそのつど任意に組織されています。

最後になりますが、「天体スペクトル研究会」を共催していただきました綾部市天文館・大阪市立科学館・美星天文台にこころより感謝申し上げます。会場を提供していただいた綾部市天文館館長・上原直人様には、ご多忙にもかかわらずご挨拶をいただきました。お礼申し上げます。また、本集録作成にご援助をいただきました大阪市立科学館にもあつくお礼申し上げます。

1996年4月

天体スペクトル研究会実行委員会

委員長 定金 晃三

目次

はじめに	定金 晃三	i
分光観測と物理情報	定金 晃三	1
122P/de Vico 彗星におけるガス／塵比 および NH ₂ 生成率	河北 秀世・綾仁 一哉・松原 敬二	10
小型分光器による恒星の基本量決定	加藤 賢一	19
簡易マイクロフォトメーターの製作	久保田 諄・富田 良雄	29
磁変星「HR 5049」の分光解析	西村 昌能・定金 晃三	31
プレオネの視線速度の測定と解析	片平 順一	38
動きはじめた美星天文台分光器	綾仁 一哉	43
綾部市天文館分光観測設備概要	山本 道成	48
対物プリズムによる恒星スペクトル分類	船越 浩海	54
天体スペクトルに関する参考書	加藤 賢一	65
参加者名簿		66
研究会風景		67
資料編		68

表紙の図：綾部市天文館の分光器の概念図